

令和 6 年度 重点目標・達成指標と重点的取組・取組指標と学校関係者評価(第 1 回) 実施日 月 日() 【九重町立東飯田小学校

【教育目標】

確かな学力を備え、協働し自ら考え行動する児童の育成
～学ぼう・伝えよう・繋がりよう～

【育成を目指す資質・能力】

○ 相手や目的に応じた表現力

○

○

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価者からの意見
知識及び技能の習得	基礎基本の知識と技能をもとにした課題解決能力の育成（学ばう）	国語・算数の単元テストの「知識・技能」の領域で標準期待値を超える児童の割合70％以上 国語 69.9％ 算数 68.6％	○個に応じた少人数指導の実施 ○ドリルタイムの複数指導の実施	・ドリルタイムでは支援体制表を作成し、複数指導による個に応じた指導を実施することができた。 ・eライブラリ等、ICT機器を活用したドリルタイムを実施できた。また、単元末にはドリルタイムの時間を使って個に応じた指導ができた。 ・単元末の個に応じた指導を行う時間を確保するのが課題となっている(ドリルタイムが週に2回しかないため)。 ・個に応じたきめ細やかな指導ができるよう、これからも定期的に支援体制表を見直していく。 ・算数では、レディネステストを実施し、個のつまずきを把握して指導に生かす。 ・単元末に少人数指導の時間を確保するために学習計画を見直し、指導に入る職員に事前に伝えておく。
		○家族読書の推進 ○静かな家庭学習時間の設定	○学期に1回ノーメディアデーを設定し、配信メールで周知し、家族で読書を行う。 ○肯定的評価89.8％ ノーメディア週間では、1日1時間以上メディアを消す。 肯定的評価86.4％	・評価は悪くないでしょうが、保護者としては、毎年、毎回同じやり方でどうか？とも思います。 ・家族読書はそれぞれの家庭の中で定着していると思う。本に触れる機会を親子・家族で共有できるので、よい取り組みだと思います。ノーメディアについては「1時間以上」なので、取り組みやすいと思います。 ・ノーメディアは学校からまた家庭教育部からの積極的な声掛けにて一人一人が気に掛ける意識づくりができてよいと思う。TVを消したり携帯から離れるというのはなかなか難しいけど、ほとんどの人が時間の確保、過ごし方が定着しているので良いと思う。
		○放課後チャレンジ教室での知識・技能習得	○公民館主事が毎週水曜日、公民館で行事体験や工作などを実施し、取り組む姿を通じ評価する。	・学校とは違う環境で、地域の人たちから学ぶということは児童にとって意味のある時間になっていると思います。知識・技能の観点では、基本的にハサミやノリなどを使用して工作することが多いため、得手不得手はありますが、年間通して上達しているように感じます。 ・宝っこ夢フィールドの活動(参加者37名、全体指導者1名)を通して①チマキづくり②紙トンボづくり③アジサイちぎり絵④起き上がりこぼし作成(感じたこと)①積極性は感じられた②協調性は全体的には認められるが、一部には違った子がいる③活動は縦割り班で行っており、期待した成果はあったと思う④気になった点 活動の中で学校より問題が合った子が参加するので気をつけるように連絡があったが、活動における問題はなく、他の児童と変わりなく行っていた。一時的であったとしても、学校では問題がある子が、地域活動で問題なく過ごす違いは、児童4名に指導者1名の目配りの違いなのか。 ・放課後チャレンジ教室では、季節ごとの行事体験や昔からの伝統や地域の特色などを生かした工作などを取り入れ、制作に生かしています。子どもたちとともに作り上げていく中になって、思考力や創造する力も養っていると考えます。子どもたちは一生懸命、中には集中できない子供もいますが、声をかけやる気を出させます。 ・いろんな体験ができているが、学校もどんなふうに児童が理解しているか、確かめてみることも大切である。 ・宝っこ夢フィールドは6月から開始をしました。1年生については雰囲気になれるか気にしていましたが、そして、時間がかかるかな～と思っていましたが、そんな心配は無用であっという間に笑ったりとその場に溶け込んでいました。よく見ると上級生がそれとなく優しく接してくれていました。すごくうれしい場面でした。その関係は安心してみていられます。今もそれは続いています。
思考力、判断力、表現力の育成	自ら考え、深め、伝えよう・目的意識を持ち表現	○考えを伝える場の保障	○ベア学習やグループ学習の場合を1日1回以上実施する。 肯定的評価100％	・考えを伝えあう場を全職員が意識して実施できた。 ・学年が上がるにつれて否定的な回答が増えている。 ・引き続き、ベア・グループ学習の場を設定していく。 ・帰りの会等で一日のがんばりや友だちのいいところを伝えあうなどし、思いを伝えることのハードルを下げる。
		○音読への意欲の向上	○保護者は、週1回以上子どもの音読に向き合って聞く時間を持つ。 肯定的評価83.1％	・音読に向き合うというのが少し難しいので、言葉を変えるか、読み合うとかはどうでしょうか？そうすると自然と向き合えるのでは？と思います。 ・取り組みやすいと思います。 ・ほとんどの人が取り組めており、よいと思う。音読の宿題は親と子に限らずだれかと向き合ってしないと成り立たないので、向き合う時間を持てているので良いと思う。
		○公民館活動での、児童の承認・認知の実施	○公民館主事が毎週水曜日、公民館での行事体験や工作などの活動で、スタッフに認知、賞賛の声かけをしようとし、アンケート調査を実施する。 ○礼儀正しい言葉遣いの指導をするとともに肯定的評価をする。	・アンケート調査まではできていませんが、スタッフ(地域の方)に児童への認知・賞賛の声掛けをお願いしています。活動に意欲的でなかった児童も、声掛けを行っていくうちに少しずつ興味を持ってきていると思います。 ・約40名近い子どもたちが宝っこ夢フィールドに参加していますが、まじめに取り組む子供もいる中に、大きな声を出して注意しても聞かない子供や、立ち回る子ども、1対1の支援がいる子供と、なかなかまとめていくということ、大変です。言葉遣いも、目上に対してなど全くできていない子供たちが多い中であって、スタッフ一同、一人一人に寄り添い前向きな誉め言葉で指導しています。子どもたちはそれぞれにがんばっていると信じています。 ・児童の参加者も多く、体験の場とともに、居場所としても過ごしやすいと思います。関わっている人の気持ちを感じてほしい。 ・作品を仕上げたのに興味がわいて無心になっているのを感じました。さすがに上級生になるとその作品も見事なものです。ワイワイ言いながらでもしっかりと時間内に仕上げています。これも見ていてうれしくなります。
学びに向かう力、人間性等の涵養	自己主体的に行動し、他者との協働を図る	○児童を主体とした授業改善	○各教科・領域で学期に1回以上協調学習に取り組む 肯定的評価57.1％	・児童を主体とする授業改善について、協調学習について、それぞれ研修会を実施した。 ・児童アンケートで、「家での学習時間(学年×10分)が守れた」の肯定的回答82.2％ ・教師、児童ともに自主学習へのハードルが高い。 ・授業研を実施し、研修会を受けての取り組みを各学年で行う。 ・自主学習のワークシートやモデルを作成しハードルを下げる。児童の実際の取り組み(プリント)を掲示し、意欲付けを図る。
		○高学年で自主学習に取り組む	肯定的評価33.3％	・自主学習をする子供が多い中で、ただ時間を決めるというよりも、主体的にできていない部分を徹底することや時間より目的・課題をしっかりと持つことで取り組めるような学習方法を教えていくことがしたい。 ・75.9％が高いのか低いのかわかりませんが、学習に取り組む時間帯が遅くならないようには気を付けていく必要があると思います。 ・家に帰って宿題に取り組むという形が自ら進んでまたは家族の声掛けにて行っているのかがわからないが、家庭でやれている。やらなければいけないという気持ちを持った人が多かったのではないかと思われる。
		○家庭での学習習慣を定着させる	○家庭学習の時間を決めて取り組ませる 肯定的評価75.9％	・7月26日より始動する「キッズアカデミー」では32名の児童と未就学児が集まりました。全10回の講座を通して、自ら考え発言し行動できる児童の育成を目指します。最終的には11月10日に開催予定の「つ～だらだった祭り」にてキッズマルシェを行う予定です。 ・活動の中で上級生が下級生の世話をする姿が見られます。素晴らしいなあと思います。自主的に行動し、他者との協働を図る、繋がる姿だと思います。活動の意味は多々ありますね。 ・いろいろ工夫していると思う。児童の興味のほか、地域の伝統を伝える活動もよい。 ・学校として、しっかりと大切な部分を教育しているのだな～と感じています。育成協の行事で1泊2日のプログラムや朝から夕方までの行事を計画し実施していますが、団体行動の大切さはしっかりと学校で教育されているようで、私たちからそんなに注意する場面はありません。
働き方改革の推進	持続可能職場での働き着のあり方	毎月1日分以上年休をとる職員50％以上 55.6％ (4～6月)	○業務改善の推進	・年休取得を意識させる指標として妥当であったと考える。 ・年休が取れていない職員が固定化しているので、面談などを通してストレス過多とならないよう見守る。
			○毎月1回、運営委員会の中で労働安全衛生委員会を催し、超勤時間を把握する。 毎回	
			○月末に翌月の年休予定を立てる 毎月	